

局所進行膵癌に化学療法および重粒子線治療（炭素イオン線治療）を受けられた皆様へ

QST 病院と千葉大学医学部附属病院では、局所進行膵癌に対する重粒子線治療における予後因子についての研究を行うことになりました。この研究は、診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究では、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」により、対象となる患者さんのお一人ずつに直接説明を行った上で同意をいただく代わりに、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先：窓口」へご照会ください。もし、詳しいことをお知りになりたい場合には、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲で、より詳しい計画書や関連資料を閲覧いただくことができます。また個人情報保護法に基づく開示・利用停止等の手続き等を希望される場合にはお申し出ください。

[研究課題名] 膵癌に対する重粒子線治療における予後予測因子の解明

[研究実施期間] 各研究機関の長の許可日～2029 年 3 月 31 日

[研究機関及びその長の氏名]

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 QST 病院 病院長：石川 仁

千葉大学医学部附属病院 病院長：大鳥 精司

[研究代表者] 量子科学技術研究開発機構 QST 病院 黒崎 宏貴

[研究責任者] 千葉大学医学部附属病院 消化器内科 大山 広

[研究の目的]

この研究の目的は、膵癌に対して QST 病院で重粒子線治療および化学療法を受けられた方と千葉大学医学部附属病院で化学療法を受けられた方の治療効果や有害事象を遡って比較解析することで、重粒子線治療後の予後延長の因子および重粒子線を用いた最適な治療法を解明することを目的とします。

[研究の方法]

●対象となる方々

2016 年 4 月から 2024 年 3 月までに QST 病院で局所進行膵癌に対して重粒子線治療および化学療法を受けた方。

2016 年 4 月から 2024 年 3 月までに千葉大学医学部附属病院で局所進行膀胱癌に対して化学療法を受けた方。

●利用する情報と利用方法

診断名、年齢、性別、臨床情報、検査結果、治療方法、治療成績、有害事象

情報取扱いの安全管理された電子システムに保存されている 2024 年 9 月までのデータを集計します。

新たな質問や検査はありません。

本研究においては、氏名等の個人を直接識別できる情報を削除し、識別番号に置き換えたデータとします。各研究機関で収集されたデータは、インターネットを介してパスワードをかけて送付し共有され、各研究機関で解析が行われます。氏名等と識別番号との対応表は各研究機関で保管し、外部には提供されません。

[個人情報の取り扱い]

患者さんの権利と安全を守り、データの信頼性を確保するために、専門家がカルテを確認することがあります。集計されたデータは他の情報と照合しない限り特定の個人を識別できないよう加工された上で取り扱われます。研究成果は、誰の情報であるかがわからない状態で使用され、個人名などの個人を特定できる情報は一切判らないように配慮されます。この研究にご自分のデータを使ってほしくない方（または代理の方）は、2025 年 3 月 31 日までに下記窓口にお申し出ください。この調査へのご自分のデータの使用をお断りになっても、不利益を受けることはありません。なお、上記の期間の後、データを解析して個人情報と切り離してしまった場合には取り除けないことがあります。その場合にも個人情報が特定されることはありません。

[問い合わせ先：窓口]

〒263-8555

千葉県千葉市稲毛区穴川 4-9-1

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 QST 病院 黒崎 宏貴

電話；043-206-3306（平日；9:00～17:00）

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻 1 - 8 - 1

千葉大学医学部附属病院

消化器内科 病院講師 大山 広

消化器内科 医員 黒崎 宏貴

043-222-7171